

第1章

令和2年度「世界青年の船」 その後の未来報告会～SWY WAVE～ 事業概要

The image contains two main parts. On the left, there is a logo for "SWY WAVE". It features the text "Ship for World Youth Program: After SWY Stories for the Future" above the word "SWY WAVE". The "WAVE" part is stylized with a blue wavy underline. On the right, there is a photograph of a large white cruise ship with a red funnel and several red lifeboats on its deck. The ship is docked at a port.

「世界青年の船」事業（SWY: Ship for World Youth Program）とは

現在、グローバル化が進展する中で、あらゆる分野で国境を越えた協力・調整・交渉が不可欠となっており、国際社会のみならず、地域社会等においてもグローバル化対応を牽引・指導するリーダーが必要となっている。

「世界青年の船」事業は、多様なバックグラウンドを持つ青年が参加し、各分野でリーダーシップを発揮して、社会貢献を行うことができる青年を育成することが趣旨である。さらに本事業は、諸外国青年が集まる世界の縮図といえる環境で、共同生活をしながら、セミナーやディスカッション、文化交流の機会を提供することにより、相互理解や国境を越えた人的ネットワークの形成を促進し、人材育成面での国際貢献を行うことも目指すものである。

本事業には、例年日本世界の約10か国が参加し、日本から約120名、その他10か国から約12名ずつ選出され合計約240名の青年が集う。青年たちは約40日間にわたる陸上、船上研修及び訪問国活動に参加し、世界的視野に立った共通課題に関するディスカッションやセミナーを始め、各種研修や交流活動を行ってきた。

参加青年全員が、国別に分かれる参加国団、活動の基本的単位であるレター・グループ、各種委員会、テーマごとに分かれるコース・ディスカッションという場面による4種類のグループにそれぞれ所属し、陸上及び船上での研修を行う。

本事業における研修の機能は主に3つあり、1つ目は異文化理解の学びと実践の場としての機能である。世界各地から多様なバックグラウンドを持った青年が集い共同生活を行うことで、異なる文化に対する理解力や柔軟性を身につける。

2つ目は、アカデミックな議論を行う場としての機能である。研修には参加青年だけでなく専門知識とファシリテーションの能力を兼ね備えた専門家が参加し、コース・ディスカッションと呼ばれるアカデミックなプログラムを率いる。青年たちは7つのコース・テーマに分かれ、専門家の指導のもと講演やディスカッション、ワークショップ等を通じて世界共通の課題に対する学びを深め、リーダーシップ、プロジェクト・マネジメント等のスキルの向上を図る。

3つ目は、ピア・ラーニングの機会としての機能である。参加国単位で行うナショナル・プレゼンテーションや自国の文化を教え合うクラブ活動、訪問国での様々な活動を通じて、それぞれの国や文化についての理解を深め、参加青年が自主性を持って互いに学び合える環境が整っている。

実施の経緯

令和2年に新型コロナウィルス感染症が世界的に感染拡大したことを受け、日本を含む多くの国で、海外への渡航、入国を制限する措置を探るなど、人的な移動が大きく制限された。これらの影響を受け、「世界青年の船」事業を含む令和2年度の内閣府青年国際交流事業は、参加青年及び事業関係者の安全を確保することが困難であることから、すべて中止された。

様々な制限が生じた一方で、社会全体においては、オンラインを活用した働き方や交流など、「ウィズコロナ社会」を念頭において新たな生活様式を模索する動きが見られた。物理的な制約がなくなり、瞬時に世界中の人々と繋がることができるオンラインサービスが整えられ、オンラインでの会話や交流が人々にとって身近なものとなった。

このように変容する社会において、国際交流そのものの価値や、長年実施されてきた「世界青年の船」事業について再考し、世界各国の青年との友好関係を維持する重要性を鑑み、令和2年度「世界青年の船」その後の未来報告会～SWY WAVE～を実施する運びとなった。事業の歴史の中で初の試みとなるオンラインでのプログラムは、事業を通じて日本と関係を結んできた関係各国の青年とオンラインで再び繋がり、今後求められる国際交流の在り方やリーダーシップについて考える機会となった。

各回の報告会では、坂本哲志内閣府特命担当大臣による、プログラム参加者に向けたメッセージを配信した。

坂本哲志内閣府特命担当大臣によるメッセージ

内閣府特命担当大臣の坂本哲志でございます。

令和2年度「世界青年の船」その後の未来報告会の開会に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

「世界青年の船」事業は、日本と世界の青年が船上等での交流を通じて、相互の理解と友好を促進するとともに、国際的視野を広め、国際協調の精神を養い、次代を担うにふさわしい青年として育成することを目的として実施し、これまで世界で活躍する多くの青年を輩出してきました。

各分野をリードする人材の育成は国の発展に不可欠であり、今後も本事業を継続してまいりたいと考えております。

しかしながら、今年度は、新型コロナウィルスの世界的な感染拡大により、国を越えた交流が困難な状況であり、当初予定しておりました船による事業も残念ながら中止となりました。

その一方で、現代はオンラインの活用により遠く離れた国々の青年同士が瞬時につながることができる時代もあります。こうした技術も活用し、代替的な国際交流の場、そして新しい試みとして本報告会を開催することとしました。

このような場に、多くの方々が参加され、本日の開会を迎えることができ、私としても喜ばしい限りです。

本会を通じて、参加者の皆様が「世界青年の船」事業についての理解を深めるとともに、世界の課題を認識し、議論し、共有することで、青年国際交流の新たな方向性を切り開き、今後の事業の更なる深化につながるものとなるよう祈念し、私のご挨拶とさせていただきます。

プログラム概要

趣旨

SWY WAVEは、「世界青年の船」事業の魅力を伝え、地球規模課題についての学びの場を提供するオンラインプログラムである。国際社会で活躍する既参加青年をゲストに迎え、「世界青年の船」事業とは何か、また事業への参加が人生に与える影響について経験談を基に講演を行った。また、新型コロナウィルス感染症の感染状況に対応していく、今後の青年国際交流や、社会問題に対するリーダーシップの在り方について、一般の参加者も交えたワークショップやディスカッションを実施した。

本プログラムは全6回行われ、開催対象地域の既参加青年が登壇し、世界各国からの参加者・視聴者を迎えて開催された。

参加者及び登壇者

参加者は「世界青年の船」事業や国際交流に関心があり、将来的に事業への応募を検討している世界各国の青年を主な対象者とした。参加人数は無制限とし、オンラインという環境を活用して広く参加者を募った。登壇者は一般公募で既参加青年の中から募集し、書類審査及びオンライン面接を行った。同時に「世界青年の船」事業事後活動組織（SWYAA）からの推薦を受け付け、候補者へのオンラインによる聞き取り等をもとに、内閣府と受注者の二者によって登壇者を選考した。選考に当たっては、「世界青年の船」事業に参加した経験が現在のキャリアやライフスタイルとの関連性が見られ、国際社会で活躍している既参加青年を採用した。

回数	開催日時（日本時間）	対象地域	テーマ	事前登録者
第1回	令和2年11月28日（土） 13:00-16:00	アジア・ 大洋州	コロナ時代の国際交流 ～異文化体験の価値を再考する～	419名
第2回	令和2年12月20日（日） 8:00-11:00	南米	国際交流が生み出す未来のインパクト	417名
第3回	令和3年1月16日（土） 16:00-19:00	アフリカ	青年外交が世界を変える	237名
第4回	令和3年2月6日（土） 16:00-19:00	中東	中東から世界を変える ～女性グローバルリーダーがめざす「男女平等」のネクストステージ～	276名
第5回	令和3年2月20日（土） 17:00-20:00	欧州	グローバルリーダーに求められるAIリテラシー	378名
第6回	令和3年3月7日（日） 8:00-11:00	北米・ 中米	私たちが描くよりよい未来の設計図	404名

各プログラムの構成

各プログラムは約3時間実施され、以下のようなセッションで構成した。

セッション名	時間	内容
オープニング	5分	開会
オリエンテーション	20分	司会による「世界青年の船」事業とSWY WAVEの概要紹介
大臣によるスピーチ	2分	坂本哲志内閣府特命担当大臣による参加者へのメッセージ
エピソードトーク・セッション	30分	「世界青年の船」事業の特色の1つである「国境を越えた友好関係の構築」をテーマとした対談及び鼎談形式のセッション
基調講演	45分	国際社会で活躍する登壇者による「世界青年の船」事業から得た学びや社会課題への取り組みについての講演
ブレークアウト・セッション	40分	既参加青年がファシリテーターとなり、自国の文化や社会問題についての学びの場を提供する複数同時開催のセッション
クロージング	5分	閉会